

S-face

SFC makes the future through researches

エネルギーを デザインして 社会を、世界を変える

オオニシ タクヤ

VOL.

017 /100

2017.Feb 発行

和の色: 藍鼠色



デザイナーとして 別の視点から社会問題を解決

貧困、教育、経済、資源、環境——。世界で起きている社会問題の多くは、エネルギーと密接な関係にあります。

これまでエンジニア、政治家、投資家といった立場から語られることの多かったエネルギー問題に対して、デザイナーの視点からアプローチするオオニシタクヤ准教授は、「エネルギーをデザインして世界を変えよう」と声を上げています。オオニシ准教授が取り組むエネルギー・デザインによる社会貢献と、そこから導かれる未来とは、どのようなものなのでしょうか。

エネルギーにデザイナーは どう関わっていくか

今、エネルギーと私たちの関わり方に変化が生まれています。個人が小さなソーラーデバイスを持って携帯電話を充電できたり、バッテリーパックを持っていれば山の中でも通信機器や電子機器が使えたり、エネルギーが扱いやすいものになりました。コンセントに電源プラグを差して使うといった従来型のエネルギーとは違う、新しいエネルギーの世界が始まっています。

世界中に山積している社会問題は、エネルギーとの関係を新しく考え直すことによって、大きく変わる可能性を秘めているという直観が、私にはあります。これらの諸問題に対して、どのようなデザインソリューション^(※)が有効なのか、学生とともに実践を繰り返してプロジェクトの実装を目指しています。

再生可能エネルギーの活用などの社会貢献プロジェクトを進めるとき、実現可能なことを着実に積み上げていく力と同時に、ビジョンを描いてフィールドの外側から「引っ張りあげる」力も欠かせません。その外側からの力となるのがデザインです。プロジェクトの成功

には、多くの人に参加してもらうことが不可欠。人を引きつけ、参加者や支援者になってもらうには、プロジェクトにどんな魅力をプラスすればいいのか。それを発想するのが、デザイナーとして携わる私の役割だと思っています。
※問題解決する方法をデザインすること

社会貢献活動から 宇宙エレベーターまで

2010年にエネルギーをデザインする会社「ENERGY MEET」を設立し、クライアントと組んで活動しています。具体的には、デザインイベントに参加し、利用したソーラーパネルなどを無電化エリアに贈る社会貢献活動、地方自治体向けに会議を開き、それぞれのケースに合ったエネルギーの可能性を提案するコンサルティング事業、発電デバイスの開発など、内容は多岐にわたります。

さらに、超長期的なビジョンを打ち出すのも、重要な仕事と位置付けています。たとえば、2100年には地球の人口は100億人を超え、エネルギーと食糧問題は危機的な状況になると想定されています。この危機を乗り越える方法として発信したものが「SKYHARVEST」。宇宙に

ソーラーシステムと無重力農場を作り、宇宙エレベーターで地上とつなぐプロジェクトです。普段の生活とはかけ離れたスケールに挑み、技術的、政治的、経済的なことに縛られない発想で作品を作り、世に発表していくのが、デザイナーとしての私のミッションだと考えています。

デザイナーは、時には夢を描いて未来の方向性を示すこと、「あの方向に何か希望があるんじゃないか」と感じさせることが使命だと信じています。そういう人間がいてこそ、我々は新しい未来を開拓できるのではないのでしょうか。

小さくたたんで大きく広げる 軽量モバイル建築

2009年ごろまで、建築家として「極限建築」「モバイル建築・軽量建築」の研究に魅了されていました。研究対象は、建築を最小限にパッケージ化し、極限環境で最大のパフォーマンスを発揮させるための設計デザインで、空気で膨らむ建築（インフレータブル）や軽量組み立てタイプの建築が主です。タイのキングモンクット工科大学（KMUTT）ではこのテーマでデザインスタジオを運営し、日本の企業との共同研究、軽量のアルミ管を組み立てて作るシェルターなどの開発プロジェクトを進めていました。こうした建築が投入されるエリアは、僻地、極地、災害被災地など苛酷な状況であることが想定されるため、とてもチャレンジングな取り組みでした。軽量モバイル建築は、たとえば宇宙に居住空間をどのように運び、拡張するか、といったことに繋がる可能性があり、現在も「建築生産とデザイン」「極限環境デザイン」の授業で研究を進めているところです。

そしてこの「小さく折りたたみ、大きく広げる」というスタイルは、エネルギー・デザインの分野やENERGY Giftにも生かされています。建築からエネルギーへ、という大きな方向転換のようですが、「ない」場所に関わを持って「ある」ようにする、という点は共通していますから、さまざまな点でふたつの研究はつながっていると感じています。

ENERGY MEET



2010年設立。エネルギーの問題にクリエイティブでアプローチし、エネルギーと社会をつなぐことを目的としている。デザイン、コンサルティング、メディア運営、人材育成、社会貢献活動と、幅広く活動している。

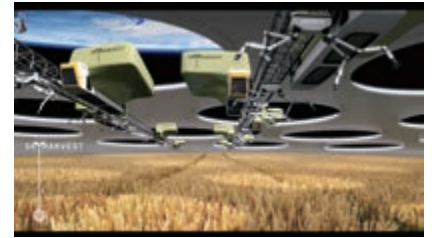
ENERGY Gift



2014年からタイのキングモンクット工科大学（KMUTT）と共同で進めているプロジェクト。タイ国内の離島や山岳民族の集落、アフリカの発展途上国など、無電化エリアに太陽電池などのエネルギーを提供するのが狙い。



SKYHARVEST



エネルギーと食糧の問題を解決するために、宇宙にソーラーシステムと無重力農場を作り、宇宙エレベーターで地上とつなぐプロジェクト。2100年に人口100億人時代を迎える頃に必要な食料とエネルギーの供給を賄うための設計がされている。

FloES (Floating Energy Station)



タイのチュロンコン大学と共に共同開発した、水に浮くソーラーシステム。毎年どこかで必ず発生するタイでの洪水災害に対し、建築学科の学生らと共に制作。洪水災害用通信専用エネルギーステーションとして設計し、後に教育科学館に寄贈。



詳しくはWebサイトへ

詳細インタビューや動画も
ご覧いただけます

S-face

検索



慶應義塾大学SFC研究所
慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当
〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤5322
Tel: 0466-49-3436 (ダイヤルイン)
E-mail: info-kri@sfc.keio.ac.jp



Profile オオニシ タクヤ

慶應義塾大学環境情報学部准教授。武蔵野美術大学卒業後、AAスクール(英国建築協会付属建築学校)に留学し、英国王立建築家協会の修士課程最優秀作品賞を受賞。エネルギーをデザインする会社「ENERGY MEET Co.,Ltd」の共同代表も務める。